

第3回まちづくり懇談会 議事要旨

- 1 日 時 平成27年10月9日（金） 午後2時～午後3時
- 2 場 所 市役所9階 第2応接室
- 3 テーマ 『「バスケットの街」船橋に』

【議題】

- バスケットゴールの増設について
- バスケットの認知度、好感度アップについて
- 人材の活用による街の活性化について

4 次 第

- (1) 開会の辞 森 zou WORKSHOP代表 村田 寿美礼
- (2) 出席者自己紹介
- (3) 市長挨拶
- (4) 活動報告
- (5) 懇談

1. 市長挨拶【 船橋市長 松戸 徹 】

今日はお越しいただきましてありがとうございます。

船橋は、今年、ジェッツのホームタウンになって、明日からシーズンが始まるのですが、ホームタウンにするまでにはいろいろなハードルがありました。

例えば、総合体育館（船橋アリーナ）は市民体育館なので、市民の人たちが使うことを前提にしているのに、そこをプロチームが優先して使うとなると、当然、市民の人たちの活動に影響が出てきます。

その辺を、市体育協会とかバスケットボール協会が理解をしてくれて、子どもたちのためにも、今までジェッツの皆さんが頑張ってくれていたのも、みんな協力をしてジェッツをサポートしていきましょうということで実現をしました。

そういったことも含めて、船橋はいろいろなジャンルの人がエネルギーに活動してくれていて、そういった人たちに色々結びついてもらって、身近なところから知り合いになってもらって、いろいろな活動をする中で子どもたち

が大人になったときに、今よりももっとお互いに挨拶ができるまちになっていればいいなと感じています。

バスケットを含め、スポーツもそうだし、音楽もそうですけれど、いろいろな可能性を結びつけていければと思っています。今日は皆さんに率直に感じていることを聞かせてもらえればと思っています。よろしくお願いします。

2. 活動報告及び懇談

【代表】

今日のテーマが、「バスケの街 船橋に」ということで、船橋市がスポーツ健康都市宣言を掲げている中で、私たち保護者が常々感じていることがある。

子どもを公園で遊ばせる時、ボール遊びができる場所がほとんど見当たらない。スポーツを推している市であるにも関わらず立て看板に「ボールは使わないように」と書いてあり、なかなか外遊びができない、遊具もどんどん減っている。

今日は高郷小を中心としたバスケット部の保護者に集ってもらった。バスケットゴールが増設できるか。バスケットの認知度向上と、市が千葉ジェッツのホームタウンであることにより、千葉ジェッツの方に、プロの選手として仕事をしていると聞くと子どもたちにはやはり夢のある職業になると思う。子どもが夢を持てるまち、船橋になるはずなので、直接それぞれの保護者から細かい点、気になる点を話してもらいたい。

【団体】

子どもが遊ぶ場所が非常に少ないのと、いろいろな球技がある。

その中で、バスケットは、ボールをつく音が出て、ゴールがないと成り立たない。公園は緑地のようにしてあるため、ボール遊び禁止となっている。そうになると、なかなか難しいとは思いますが、外で遊ぶ場所自体が少ないと感じる。

【市長】

実は、船橋は公園の数が足りていない。

今まで、公園をつくる余裕がないまま、人が増加し、学校ができ、そちらにお金を投資したため、補いきれていない。

そういった中で、公園でボール遊びができるかどうかという話は、実は大人

がつくってしまった。要するに、公園にいたらボールが飛んできて当たる。そのことに対して苦情が入りどんどん大人が規制をかけている。

今でもそういった苦情は、市に入っている。

実は、去年と今年の夏休みに市内の中学生と「こども未来会議室」を実施し、私立を含めて全部で28校を、それぞれ5回に分けて話をした中で、去年の中学生から、「キャッチボールなどボール遊びが自由にできる公園がほしい。」という提案をもらった。

私としては、「こども未来会議室」は子どもが考えて提案をしたらまちも動くという経験をさせたかったので、「ボール遊びができる公園」について、今年に入り委員の方々と検討会をしている。これは、町会、自治会の方々も関わり、理解を得る必要がある。

今年中に結論を出し、来年の4月以降になると思うが、試験的に東西南北と中央で5カ所程度の公園で実施を検討している。

他の自治体では、ネットで区切った公園も設置しており、検討会でもそういった案が出ている。逆に、ネットで区切った公園を、子どもたちは望んでいないのではないかといった意見もある。いろいろな意見があるため、試験的に幾つかパターンを取り入れてみる。

私としても、子どもたちが公園で自由に遊べないのは、公園の本来の目的と違う気がするので、やっていきたいと思っている。もともと、市が勝手に看板をつけたわけではなく、市民要望が強くなって、看板をつけた経緯があるため、外す時もまた、地域の方々の理解が要る。

「まちかどスポーツ広場」というところがある。そこは、空き地を利用し、スポーツができる広場にするということで、市内に14カ所程度あるが、今、バスケットのゴールがついているのは、夏見と法典の2カ所しかない。

ただ、バスケットのゴールを、みんなが設置してほしいということであれば、それぞれのスポーツ広場のスペースにもよるが、少し考えている。

あとは、小学生ぐらいの子が自由に遊べる高さを、どうするか。

こういった話を聞く中で、いろいろな提案があることは、役所が動き出す一番の力になる。

また、公園としてほしい場所は、土地代が高いのと、意外に船橋は広いスペ

ースで空いているところがない。

公園をこれからも極力増やしたいということで実際に動いているが、市域が広いのであまり目立たない。

【団体】

私には5年生の子どもがおり、ミニバスケットをしている。

近くの広い公園にバスケットゴールを設置したいということで話があり、考えたのだが、公園に設置することは近隣住民のことも考えると難しいと思った。

そこで、学校の校庭に設置することを考えた。

学校の校庭に1台でもあると、試合の練習にもなる。

また、バスケットは、基本的に体育館の中のスポーツになるので、認知度が低い。大人になり、私も子どもがやるのを見たが、見ないと良さがわからないと思う。

なぜ、バスケットは楽しいのに認知度が低いのかと考えたら、外にゴールがないからだと思い、学校の敷地内に設置するのがいいと思った。

是非よろしくお願ひしたい。

【市長】

学校の校長先生によって考え方がるので、私が勝手に付けるわけにはいかない。

基本的にバスケットは体育館競技だが、外遊びの時にゴールがあるだけで全然違うと思う。

【団体】

サッカーや、ポートボールのゴールはあるが、バスケットはない。

【市長】

バスケットは、おそらく市・県のバスケットボール協会も、千葉ジェッツも、日本もそうだが子どもたちを育てようという、1つ大きな柱になっている。その辺の環境整備をどのようにしていくのがいいか。船橋市は、千葉県の中でもミニバスケットの登録選手数が1,100人程度と多く、ましてやチーム数は圧倒的に多い。

だから、10年たてば立派な社会人とか、大人に混じってやれる選手になると思っている。これは教育委員会と協議をしてみる。

【団体】

千葉ジェッツがスポンサーで各学校に赤いゴールと赤いボールを申請すると、子どもたちが毎日使うものの愛称としてジェッツゴールとなり、ホームタウン戦にも行こうとなる。時々、選手にも、今うちの子どもが通う学校などを回ってもらおうようにしている。

また、体育の授業中などでバスケットがあるが、そのときに選手に来ていただくともた違うと思う。

結局、バスケット部に来てもらっても、そこで終わってしまう可能性が高いので、授業で来ていただくともっと広がる。

【市長】

盛り上がるし面白いと思う。

ちょっとこの辺は、教育委員会としては、プロチーム名が入っていると、いろいろ差し障りが出てくるが、ホームタウンになったということで、その辺はやりとりをして、何か工夫ができるかどうかを考えたい。

【団体】

子どもの話だが、今までスポーツに全然興味がなく、スイミングも行きたくない。ゲームかテレビにばかり興味があつたが、4年生になって部活で初めてバスケットを体験したときに、すごく好きになり、今まで休みの日になると、あのテレビ見たい、このゲームやりたいということだったが、今では「外に出てバスケットやりたい！」と言っている。

この前、バスケットのゴールがあるところに遊びに連れて行ってほしいと言ったので一生懸命探したが、ゴールがあるところが少ない。

学校の体育館も行けない。船橋市の運動公園に電話で問合せたところ、今は取り外していて、今後設置されるかは未定ということだった。今は、幕張まで行って、高いお金を払っている。

子どもがスポーツに興味を持ち、今までは「何だか行きたくない。」と下を向いて歩いて通っていたが、バスケットを始めてからいきいきと上を向いて歩くようになった。

この気持ちをいつまでも持ち続けてもらいたいと思っている。やりたいと思うときに、できる環境があるといいと思う。

【市長】

要するに身近なところでできる環境があるかないか。

これはまち全体のことになるが、いろいろな分野の市の所管とも話をして戦略的にやれるかどうか。その辺は検討させていただく。

バスケットボールは世界でスポーツ競技人口が一番多い。ホームタウンになったときも話したが、10年後のバスケットボール、ひょっとしたら変わっているかもしれない。

世界のスポーツ連盟に登録している競技人口が4億人と言っていて、その一番の理由は女子の競技人口の多さ。だから、今日いらっしゃっている皆さんもこれから始めても遅くない。

5月のホームタウンのときに川淵チェアマンと話していたが、テレビでは日本のサッカーや野球は、必ず試合結果に映像を流すが、バスケットは、NBLやBJリーグのチーム名と点数を少し出して終わってしまう。あれでは絶対に、子どもたちも興味が湧かない。

ただ、皆さんのお子さんが大人になる頃は、かなり違うかもしれない。

【団体】

ふなっしーとジャンボ君（千葉ジェッツマスコットキャラクター）が、フリースロー大会をしたら、すぐにテレビに出してくれそう。

フリースロー大会を市でやってほしい。

【市長】

フリースロー大会、面白いかもしれない。何かアイデアがあったら出してほしい。

例えば、3世代（子、親、祖父母）や、シーズンオフに千葉ジェッツの選手を入れたものを1チームにするとか面白いかもしれない。その辺も考えてみる。

【団体】

今の話に上がっているのは、外でゴールを設置すること。

それは勿論だが、児童ホームに体育館があるのでバスケができる環境はあると思う。

しかし、なかなか行きにくかったり、時間が決められていたりとか、そういうがあるので、もうちょっとその辺をアピールできたら良い。

また、高郷小学校には学区内に児童ホームの施設がない。なので、学区外の新高根児童ホームか、習志野台児童ホームに行かなくてはならず、そうすると、低学年の子たちには1人で行ってきなさいとは言いづらい。

そこら辺が何とかならないかと思う。

【市長】

児童ホームは、これまでも整備してきており、こんなに児童ホームの多いまちは、県内で多分ないだろう。

【団体】

私、実家の地域は確かに児童ホームは少ない。

ふれあい館という、小さい子から年齢が上の方まで、8時ぐらいまでやっているという建物があり、そこなら青年世代の方もバスケットをやっていたりする時間があるようだ。

【市長】

児童ホームを、あまり遅くまで開けていると逆に子どもたちが心配だ。

【市長】

児童ホームについては、すぐに返事はできないが、ただ使いやすさや学区にある児童ホームにその小学生たちがいるとちょっと入りにくいとかあるかもしれない。

高郷地区の児童ホームは、正直言って検討課題になっていなかったもので、担当の人間とやりとりをしてみて、子育て支援部と生涯学習部の両方で、現状とあわせて勉強する。すぐに返事ができず申し訳ない。

【団体】

私の住んでいるエリアはマンションが並んでおり、私たち家族はその一室に住んでいる。マンションの住人には、ボール遊びがしたい年頃の子どもも多い。また、皆さんと同じようにボールを持って行く公園がなく、結局、帰ってきてマンションの下でボール遊びをしていると叱られる。仕方なく子どもの遊びは追いかけてこになるが、また叱られ、結局家の中でゲームをするため、少しでも遊べる公園が欲しいと思う。

近隣の保護者からも、私が今日こういう席に行くということで、そういうことを言ってほしいという人が沢山いた。

ちょっと遊べる小さい公園でもいいので、集まれる場所が駅前に欲しい。

ご高齢の方も、子どもを育てるのを応援してほしいとか、見守っていただけたらと思う。

だからそういった意味でも、フリースロー大会を通じて子どもと一緒にシニア世代を巻き込みたい。

【市長】

本題とは離れるが、この世代間のギャップをどうしたらいいかというのは、やっぱりみんなで考えたい。

【団体】

多分、いろいろ注文する方は満たされていないと思うのでもっと触れ合った方がいいと思う。

以前、市長が市長になる前に、どんどん賞状を渡そうと提案した。

今、賞状をいっぱい渡してくれている。何につけ褒めれば好転すると思う。

【市長】

それはとっても大事なこと。

物静かにこつこつとちゃんと子どもたちのことを理解してくれている人は沢山いるけれど、声の大きい人たちが何人かいると、そっちにどうしても引っ張られる。

そういった意味では、地域の人達に子どもたちと一緒に遊ぶところの理解も良いと思ってもらえるようにしなければならない。

【団体】

昔は、どこの町会等でもお祭りがあり、地域の触れ合いが今より格段にあったと思うが、今はあってもなかなか参加するという、意識がなくなっている人も多い。

私は、介護の仕事をやっていたが、触れ合いの場を持つということは凄く大きな効果になると思う。

小学校の子が職場体験みたいなもので来て、歌を歌っている姿を、涙を流して聞いているのを見て、素晴らしいと感じたので、小さい子とも触れ合ってもらいたいと思う。

子どもが通っている保育園の園長に相談し、触れ合いの機会をつくってもら

えないかお願いしたら、年に2回、踊りを見せにきてもらうというのを始めた。

やはり、おじいちゃん、おばあちゃんは喜んでいる。

【市長】

地元の町会、自治会等でのお祭りの話が出たが、準備しているところで皆さんの世代は何か関わることはあるのか。

【一同】

※各々、地域の取り組み内容を述べる。

【市長】

自治会のテーブルの上で、ボール遊びがいいか悪いかという議論をし始めると、いろいろな意見が出る。

そういった時に、子どもたちが自由にボール遊びできるといいという世間話の中で、この議論がスタートしてくれたほうが、多分、おさまりはいいと思う。町会、自治会の会合で、役員会のようなところで、発言すれば各々が考えてやり始めるのではないか。

地域のコミュニケーションが一番いいような気がする。

【団体】

コミュニケーションといえば、子育て世代としてはもう少しシニア世代が関わりたいと思う反面、子どもにうかつに話しかけると不審者と間違われるなどのギャップがあると思う。

シニア世代としては何か関わりたいと思っている方は結構いると思う。

地域のコミュニケーションがしっかりととれていることが大事だと思う。

【市長】

さっき言った「こども未来会議室」をやったときは、「市長になったら何がしたいか」というテーマだった。

そこで、去年も今年も出た「障害者やお年寄りを大切にするまちをつくりたい。」というテーマがあり、とても優等生な発言で「先生に言ってこい。」って言われたのかと思い、ある生徒に何でそういうふうに言ったのか聞くと、「スクールガードで、小学校のころから通学途中を見てもらい、とても感謝している。」と言っていた。やはり地域の中のそういった素朴な活動は、時間をかけている間にすごい効果があると感じた。

だから、スクールガードをやってもらいながら育った子どもたちは、大人になって自分の子どもが通う頃になると、また意識の違った関わり方になるかもしれないし、そういった意味ではこのバスケもそうだが、いろいろな形で地域の中で触れ合ってやってもらう。

だから、皆さんの世代が提案してくれたそのフリースロー大会で、地域の中で普段あまり家から出てこないような人に声をかけて楽しく遊ぶというのも、いいかもしれない。町会ごとでも町会対抗でも面白いかもしれない。

こうやって話しているといろいろなアイデアが出てくるので、何か言ってもらえると、こちらもその中でお手伝いできることがあると思う。

しかし、社会的にゲームばかりやっている子どもたちの報道を見るが、さっきの話を聞いてちょっと反省したのは、前は公園に行ってもゲームをやっているみたいなことも言われたけど、逆に、公園に行きたくても遊ぶ場所がないから、家の中に入っちゃうということであれば、これは考え方をかなり変えなきゃいけない。

【団体】

公園で、ボールで遊んでいると怒られるので、公園でゲームという、不思議な現象が起こるというのもある。

【市長】

これ、投げかけてみるのも面白いかもしれない。

【団体】

学校が遊び場であれば皆集まれるし、スクールガードの方も見守ってくれる環境の中で、遊びながら皆で交流できるというのもありかなと思った。

また、予算とか年度など色々理由はあると思うが、とにかく対応が遅い。

うちの子もまだ小さいが、楽しく外でバスケットができる準備をしている間に、大きくなってしまう。

だから、なるべく早めに始めて欲しいと思う。

【市長】

何で役所ってこんなにやるのが遅いのかと感ずることが多いと思う。

基本的には年に1回しか予算は決められない。

だから、来年の4月以降のことを、今まとめており、3月の終わりに予算が

決まって4月からやるのだが、役所は普通の家庭のお財布と違って、責任があるため勝手に使えない。契約するにしても全部書類を整えてからでないと行動に移せない。そこで、1カ月や2カ月のタイムラグができる。その後、発注となると、結局夏ぐらいにならないと動かない。

今、役所が非常に慎重になっていることは確かで、ちょっとトラブルがあったときに役所はこの手順をちゃんとやったのかということをしつこく指摘されて、ちょっとでも揃っていないと、社会的な大問題のように言われるので、職員たちもものすごい慎重になって、石橋をたたいて、もう一回たたいてみる社会になっていることは確かだ。だから、私が若い頃の仕事のやり方よりも、理詰めになっている。ただ、可能な限りやれることは早くやっていきたいと思う。

そんな事情もあり、遅いときには遅いなり理由がある。

【団体】

多分、外でやれる環境であれば、中学生でも大人でも育っていくと思う。
バスケットゴールの設置に、例えば、船橋アリーナの駐車場はどうか。

【市長】

それは面白い。船橋アリーナであれば千葉ジェッツの名前入りでもOKかもしれない。

【団体】

可能であれば、世代別で高さも調節できるようにしてほしい。
壁も赤く塗って、千葉ジェッツと書いてくれたらみんな喜ぶ。

【市長】

可能性は十分あると思う。船橋アリーナは早速、検討させる。
千葉ジェッツの他には、ラグビーもあって、今、ワールドカップに行っている選手の中にはクボタスピアーズの立川選手がいる。

クボタスピアーズも、子どもたちに色々と教えてくれている。ラグビーもそうだが、この旬のスポーツがどんどん船橋にあるのはとても良いことだ。

スポーツにかける思いは、ジャンルを超えて共通していることが沢山ある。

【団体】

ボール遊びができる公園とできない公園がある。
結構いろいろな公園を見るけれど、おじいちゃん、おばあちゃんがゲートボ

ールをしている公園があるのに、子どもたちのボール遊びはできないのかなとも思う。

【市長】

公園のベンチに座っていたらいきなりボールが飛んできて当たったことがきっかけとなり、だんだん規制がかかって結果的にボール遊びはやめようという話になったのがスタートなので、基本的に「飛ぶ」ボール遊びは禁止している。

【団体】

公園を通じた経験で、社会に出たとき、小さい子や年下、おじいちゃん、おばあちゃんには手を出さないというか、守ってあげる子に育つと思う。

後は、船橋独自の市長が認めた夢先生（日本サッカー協会の社会貢献活動）をやってほしい。

【市長】

この辺はかなり実践的な話なので教育長と話をしないと決められない。

指導者・先生のレベルアップと、子どもたちに向けた一流のアスリートを呼ぶ教室は、教育委員会で幾つかやっているが、全てを掌握してやっているわけではない。これも校長先生の考え方がある。教育委員会にきちんと協議を試みる。

こうやってフランクに話をしてもらうのが、これからのまちづくりのやり方だと思う。真面目なテーブルの上で話をすると、いいアイデアって3割ぐらいしか出てこなくて、だからこれからも皆さんが、普段のつき合いの中で、こんなふうにしたほうが良いということがあったら、是非またお知らせをいただいて、やれることとやれないことがあるけれど、やれない場合は何でやれないのかというのをちゃんと示すことがやっぱり大事だと思うので、これからは是非またよろしくお願ひしたい。

【一同】

ありがとうございました。